

研究機関名：東北大学

受付番号：2016-1-332	
研究課題名 肺腫瘍における遺伝子異常の解析研究	
研究期間	西暦2014年 8月（倫理委員会承認後）～2019年 7月
対象試料 ■病理試料（対象臓器名 肺 ） □生検試料（対象臓器名 ） ■血液試料 □遊離細胞 □その他（ ）	
上記試料の採取期間	西暦1994年 9月～2014年 6月
意義、目的 肺癌は我が国で罹患、死亡ともに増加している疾患です。扁平上皮癌や小細胞癌ではリスクファクターとして喫煙が報告されていますが、現在、急激に増加している腺癌ではリスクファクターはあまり明らかではありません。遺伝子的には KRAS、TP53、EGFR などの変異や EML4-ALK の fusion などが重要であることが判明しています。S100A4 は膵癌で高発現し、血中にも高頻度に検出されることが報告されていますが、本研究グループでは、最近、S100A4 遺伝子が肺癌細胞株で高頻度に高発現し、これが肺癌細胞の増殖や細胞の移動能に関わっていることを発見し、報告しました。また、S100A4 遺伝子の発現の変化により発現量が変動する遺伝子もいくつか同定しています。今回、がん組織などの臨床検体を用い、さらに検討を加えたいと考えました。将来的には成果を診断や治療につなげるような研究成果を上げたいと考えています。	
方法（他の研究機関に試料・情報を提供する場合は、その旨も記載してください） 肺癌患者を対象とし、癌組織と正常組織（癌の切除の際に得られる周囲組織の正常部分）、血液を解析します。手術を行う症例においては、手術中にサンプル採取を行います。サンプルとしては組織標本、や抽出された DNA、RNA、蛋白で、まず免疫組織学的に検討を加えます。さらに、抽出された RNA、蛋白で検討を加え、必要に応じ、miRNA の検討を加えます。また、発現に影響を与える genetic、epigenetic な要因も DNA、RNA などを用いて検討します。また、これら対象患者において、治療後、フォローアップを行い、再発診断を含めて予後診断に有用なマーカー検索も行います。	
問い合わせ等の窓口 東北大学病院 呼吸器外科 電 話：022-717-8521	